

令和3年6月定例記者会見要旨(令和3年6月4日)

1. 初登庁を終えて、改めてお感じになられたことはありますか

正直申し上げて、まだ実感がわいていない。今日は、過分な登庁式をしていただいたが、徐々に市長になったんだなど、今からは市民の安全安心を確保するためにしっかりやっていく必要があると感じている。

長い間、政治生活をやってきたが、議員と市長とはまったく違うというのが本音のところである。議員時代は選挙が終わればやれやれと感じていたが、市長というのは選挙が終わり次第に両肩にずっしりと責任がついてきている。そういった意味では、かなり緊張感のある仕事だなと感じている。

2. まず取り組むべき施策に新型コロナウイルス対策を挙げられ、中でもワクチン接種のための高齢者の足の確保を検討課題とされていましたが、具体的にはどのような検討をされるのでしょうか

市長になったばかりでもあり、具体的な指示を出していくのはこれからであると思っている。市内では王越地区、そして岩黒、与島、櫃石といった島しょ部などは坂出市立病院などのワクチン接種会場から距離が遠く、どうやってワクチン接種会場まで足を運ぶのかという問題がある。

両地区の老人クラブからは接種会場までの足の確保ができていない高齢者に対して、地元の診療所で接種する機会を設けてもらいたいとの要望を受けている。そこで、坂出市立病院の協力もいただく中で、両地区で接種する機会を設けるよう指示したところである。

既に、両地区の連合自治会の協力のもと未予約者の高齢者を対象に希望調査を進めている。6月中旬までには希望者の把握が完了する見込みであり、両地区の希望者数に応じて、具体的な接種日時と場所を早急に決めるとともに、地区内の足の確保に対応してまいりたい。

地域内の診療所で接種をするということであるが、その診療所までも足を運べない高齢者がいるのも事実であり、対応を指示したところである。